2012年3月20日発行（6月・9月・12月・3月各20日発行） 第13号

60才からの"いきいき生活"応援誌

あぷろく

60 and Up

2012
3
春号

アラウンド ざ・あぷろく人
水人・藤原 悌子

「彩の国いきがい大学」
彩の国 体つくりチャレンジプログラム

働く！ シルバー人材センター
公益社団法人への移行について

人びとの風景
言っておけばよかった

ロハスライフ
ぶらり旅、加須

アラウンド ざ・あぷろく人
Around The APUROKU JIN

足元の水から学ぶ

其の十三 水人（みずびと）・藤原 悌子（ともこ）

個性あふれる「あぷろく」な人々が、輪（和）で繋がっていく「アラウンド ざ・あぷろく人」。第十三回は、さいたま市でNPO法人「水のフォルム」を主宰されている藤原悌子さんにお話をうかがいました。

「これを使うといいよ」と農家が届けてくださった「八反転（はったんころ）がし」。重労働の田の草取りもこれを使えば八反だって楽々とのこと。

「情報誌あぷろく」とは、「60 and Up」（60才以上）から表現したものです。60才からの“いきいき生活”応援誌として皆様にお届けしております。

生き物を育む 広大な水のネットワーク

藤原さんが“水”に興味をもたれ「水のフォルム」を立ち上げられたきっかけは？

宇宙へ行く時代に足元を知らないことに気付いたから、が一番簡単な答えかな。若い頃は、それこそ遊びを中心にいろいろやってきました。ヨットやスキーをしたり、バイオリンを弾いたり。でもオーケストラに入ったら音が出ないように弦に石鹸塗れって言われたり（笑い）。40歳位のとき、私の人生って何だろう？ 人の役に立ちたいなと思うようになった。そんな時に社会基盤を学ぶ機会があって、最初に土地問題、次に道路、そして水問題と学び始めたら“水”は奥が深くってここまで来ちゃったんです。

自分の足元の水、“流域の水”を総合的に学びたい、その“流域の水を介して都市も農村も、市民も企業も行政も、共に学び、考える場”が欲しい。そんな思いが強くなって、「水のフォルム」が生まれました。私なりにいろいろ調べたことをまとめたものが機関誌『水のFORUM』で、やっと11号まで発行できました。そして、水循環がより健やかになるモデルでも作れないかと思って始めたのが、その実践部隊でもあるCCM（Civic Collaboration for Minumadaiyousui）による見沼田んぼでの「市民農園」です。農業用水っていうのは、大地を流れて田んぼに行き渡る。そうするとそこに生き物が関わってくる。都市用水系のパイプラインでの循環との大きな違いは生き物との関わりが生まれること。日本一の大平野って関東平野でしょ。それのほぼ中央に位置するのが埼玉平野なんです。かつてはその隅々にまで農業用水が行き渡るようになっていた。群馬県の

▲「この認可が大変だった!」と笑顔で語る藤原さん

▲ヨシノボリ（ハゼ科）

見沼田んぼでの稲作を許可する看板と豊かな実り

藤原 悌子（ふじわら ともこ）（65歳）

NPO法人「水のフォルム」理事長。
『水のFORUM』発行の傍ら「見沼田んぼ」で農家支援。平成23年度からは、さいたま市コミュニティーセンターで月1回、持続可能な都市を目指して農地・森林の必要性を学ぶ「さいたま・水とみどりのアカデミー」を主催。並行して老母の自宅看護・介護中。

2012年春号・目次

アラウンド ざ・あぷろく人
水人・藤原 悌子 …… 1~3p
彩の国いきがい大学
講座通信
彩の国 体つくりチャレンジプログラム …… 4~5p
キャンパス通信
東松山学園（専科コース）太極拳クラブ …… 6p
サークル活動!伝言板 …… 7~11p
働く! シルバー人材センター
公益社団法人への移行について …… 12~13p
働きがい：㈳行田市シルバー人材センター …… 14p
センタートピックス：㈳飯能市シルバー人材センター …… 15p
シニアワークプログラム事業等 …… 16p
シルバー人材センター会員募集 …… 17p
あなたのまちのシルバー人材センター・高齢者事業団
人びとの風景⑬ …… 18~19p
情報! 彩の国かわらばん …… 20p
お知らせ! いきいき埼玉 …… 21p
いきいき生活術 …… 22p
読者のひろば …… 23~25p
地域活動訪問
保育サポーター・岡 弘子 …… 26~27p
ロハスライフ
ぶらり旅、加須 …… 28~29p

大水上山から湧き出た清水が利根川になり、見沼代用水に入って稲や生き物を育んで芝川・荒川を経て東京まで流れ着く。この広大な水ネットワーク。素晴らしいですよね！

印象に残る出来事や、やっていて良かったなと感じられたことなどがあれば教えてください。

川の水には、うちの地域にくるまでに山の養分だけではなく、上流域の下水処理水なども入っています。そのうえ、ここで私たちが購入した流域外の肥料を多用してしまうと最終的に東京湾での赤潮・青潮解決につながらない。私たちは健やかな水循環を目指しているわけですから、無農薬は当たり前。肥料も循環型伝統農法で取り組んでいます。農家の人たちに昔のやり方を教えてもらいながら地道にやってたら、農家が喜んでくださり、減らす努力をしてくれ始めたんです。そういう形で農家の人たちと信頼関係が築けてきたのが一番うれしい！この雑木林も、「日陰に使っていいよ！」って言っていただいたりね！でも、使っていなかったから真っ暗で蛇と蚊の巣窟でしたけどね。私が子どもの頃遊んだ雑木林は、まだ里山（農用林）だったから明るくって日差しがサーッと入って、スミレが絨毯のように咲いていた！あの光景を思い出しながら、のこぎり持って皆で整備したんです。そうしたらスミレが本当に咲き出したの！蘭もでてきた。手を入れていれば元に戻っていくの！その奥深さが良いでしょう!?

蛇と蚊の巣窟からスミレの絨毯に??

▲日が差し込むようになった平地林

▶里山のスミレ

印象に残ってるのは学習塾の子どもたち。最初、田植えもろくにできなくて、ぐしゃぐしゃやってたから、大人たちが怒って「出て行け！」って言ったんですよ。でも行く所も無くてまた戻って来たから、私が脇に付いてここでちゃんとやりなさいって言ったら、最後までやった。次の年はちゃんと田植えができたけど、田の草取りができなくて稲が黄色くなっちゃってね！学習塾の先生が自分の親まで連れて来て「出来ないならやるな！」とか怒られながらやっていた。おかげで3年目は、早いうちに田の草取りに来るようになりました。コナギ（水田雑草）は出始めたらすぐにかき回しておけば楽。田植えをしたら、その週から始める。サーッとかき混ぜると小ちゃな根がファーと浮いて流せちゃうから！初め怠けるとあっという間に立派な草になる。稲作は田植えと稲刈りだけじゃないんだってことが分かったんじゃないかな！

◀待ちに待った収穫（彩の国いきがい大学の人たちと…）

▲みんなで笑顔

堀の水に足つけて、周りは桃源郷…

藤原さんは、どんなお子さんでしたか？

私は満州生まれ。父が満鉄（満州鉄道）で奉天（今の瀋陽市）に行ってた時に生まれたの。生後8か月で祖父の隠居所があった浦和に引上げて来たんです。その後、見沼田んぼ近くに移ったので、この辺（さいたま市見沼区見山）は子どもの頃からよく来る所だったの。近所のお兄さんが大きな黒い自転車で雑木林に遊びに行くのに私も乗せてってくれて。お兄さんたちは雑木林で遊んでて、私はその間スミレを摘んだりして遊んでた。田んぼの小川に足をつけて、周りにはレンギョウや桃が咲いて春真っ盛り。その光景は桃源郷のようだった！

これからの目標などがあれば、お聞かせ下さい。

農地は農家のものですから、農家が元気になってもらいたい。そして、農業を通じてやってきた国土保全とか、自然保全のための労力も収入になるシステムモデルを実現したい。私たちはそのモデル作りをしていると思っています。そうすれば米価以外の収入も見込めるようになり、農家にもいいし、地域や流域環境も良くなるんです。

藤原さんにとって〝いきいき生活〟の秘訣は？

土地を持たないマンション暮らしの私が、農家の方々と、それも集落全体と仲良くさせていただけるようになって、広大な水と緑の農地やヤマ（平地林）で過ごせるなんて、誠にリッチでしょ。週に1日だけど、自分が自然の一部であることを思い出させてくれる日があるから無機質な都市でも暮らせる。

だってそこには生き物もいるし、日本の伝統文化も学べるし、アイデアの宝庫なんです。日本人が二千年以上続けてきた稲作について都市の住民は何も知らない。日本人のアイデンティティーにもつながってるのに！それが自分の生活の中にあるなんて、素晴らしいことでしょ!!

リフレッシュされつつある藤原さんがここにいます。本日はありがとうございました。

さて、次号の「あぷろく人」はどんな方でしょう？ ご期待ください。

▲里山（農用林）で堆肥用の落葉掻き